

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170800807		
法人名	有限会社 新生・ケア・コミュニティー		
事業所名	グループホーム オ・ハナ		
所在地	埼玉県越谷市弥栄町3-43-189		
自己評価作成日	平成24年2月24日	評価結果市町村受理日	平成24年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top_do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成24年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オ・ハナは6名の入居者と職員も女性のため、入浴や排泄等全ての介助が1対1で、ゆとりを持った対応となっており、入居者の安心に繋がっています。今年度は、市の介護支援ボランティアの方4名の方が定期的に来訪され、それぞれ得意な折り紙・ハーモニカ等のレクレーションと散歩や傾聴などで入居者の楽しめる機会となっています。入居者によっては、スリッパを揃えてお迎えしたり、お見送りの際には全員が握手するなど、微笑ましい光景が見られています。さらにホームで開催する誕生会・クリスマス会にも勤んで参加頂き、入居者の御家族にも喜ばれています。また、ボランティアの中には町内の方もおられ、散歩時はその方を通して近隣の方にも声をかけて頂くなど「ホーム」と「地域」のパイプ役になって頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・「オ・ハナはもうひとつの家族」との理念に基き、一人ひとりの違いを許容・尊重し、できるときにできることをやっていたこととの視点からのケアが実践されている。また、1対1の時間を作って、各人の訴えを聴いてあげることで、思いや意向が汲み取られている。
 ・平成22年度の目標達成計画、運営推進会議を活かした取り組みについては、事業所からの活動報告だけでなく地域の参加者から事業所への意見などをいただける場となってきている。市町村との連携においても、市のグループホーム部会で職員交流や研修の計画、施設見学などの検討に取り組むなど、目標達成に向けた取り組みがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のひとつに『慣れ親しんだ地域の人との交流を大事にします』を掲げ、地域の方々との交流も深まり、日々、入居者の皆さんに張り合いのある生活を職員一同支援しています。	地域密着型になった折に、職員全員で、オ・ハナはもうひとつの家族、との理念を作成したことにより、意識の共有が生まれ、できるときにできることをやっていたらこうとの視点からのケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より自治会に加入しており、地域主催の夏祭り・文化祭・防災訓練に、毎年参加させて頂いています。また、秋に開催のコスモスフェスタも入居者の楽しみとなっており、欠かさず参加しています。	地域の催しに参加することに加えて、介護支援ボランティアをクリスマス会に招待したり、地域の中・高生の来所などを通じて、双方向の交流を深める取組が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のエコキャップ運動に参加し、入居者と共に公民館へ届けており、地域の方々や挨拶を交わすことによりGHの理解を深めてもらっています。地域包括支援センター主催の近隣地域(老人会・民生委員・自治会長・各団体)をはじめ、地区の地域ケア会議に参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、自治会(元自治会長含む)、近隣の方々に参加頂きGHの現状を報告すると共に意見交換の場となっております。会議の中で出た意見や要望を検討し、サービスの向上に取り組んでいます。	地域の各団体役員や参加者に耳を貸してもらえようになったことで、事業所からの活動報告だけでなく、地域の参加者からも事業所への意見や要望をいただけるようになり、話し合いを通じてサービス向上に活かされている。	定期的な開催を目指し、事業所のことをより地域に知っていただくことや事業所の催しと併せるなど、運営推進会議をより活かすことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡協議会や市の研修、部会の参加、認定更新の手続きや訪問調査をはじめ、現場の実情報告や問題点などの相談・助言を頂き、密に交流しています。	困難事例や施設の改修などの相談に乗っていただいたり、市のグループホーム部会での職員交流や研修の計画、施設見学などの検討に取り組むことを通し、良好な協力関係が築かれている。	グループホーム部会での交流や研修が管理者だけのレベルにとどまらず、一般職員まで広げることが期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止マニュアルを整備し、拘束は絶対に行わないと言う考えの下、玄関及び居室も含め、施錠は行っていません。身体拘束禁止の意義などミーティングで再確認を行い、周知徹底に努めています。	職員ミーティングなどで、身体拘束の弊害を実例をもって話し合うことで理解を深め、徹底して身体拘束を排除したケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、ミーティング等で職員個々の意見を抽出し、事例検討するなど全職員で防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族の依頼を受け、現在、権利擁護の話し合いを行っています。また今年度は、御家族、職員、近隣の方々も含め研修計画を立てています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約及び改定の際には御家族とゆっくり話し合える時間を配慮し、不安や疑問点をお聞きしながら理解して頂けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には、要望等お伺いしたり、気づきの点で気軽に声をかけて頂けるような交流を心掛けています。また、今後、重度化や医療処置が必要になった時を考え、『家族アンケート』を実施しています。	利用者は日頃の関わりのなかで、家族とは来訪時に積極的に声かけを行い、携帯メールや電話も利用し、意見や要望を聴き取られている。また、汲みとられた意見や要望は、検討を経て運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを開催し、職員一人ひとりの意見・要望等収集すると共に外食や温泉等、入居者が日常的に楽しめるよう取り組んでいます。	定例のミーティングや課題があるときには、管理職より積極的に問いかけを行うことで、各職員より答や意見を得て、複数の答えより皆で決定をすることで、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	小さい事業所のため、職員個々の状況把握は出来ると思っておりますが、意見や提案等その都度、話し合う機会を持つよう心掛けています。また、職員によっては資格取得への意欲、本人の向上心を持てるよう心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修担当を設置し、職員の技術や能力の向上の為、積極的に外部研修受ける機会を設けています。また、研修後は定期的なミーティングで発表すると共にいつでも閲覧できるように研修報告書を作成しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会を通じて、各グループホームとの情報交換や共通のマニュアル作りの作成を行い、市内のGHの空き情報の共有化を図ることによって、相互関係を円滑化するなど、事業者同士の交流を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くためにご本人の希望や要望、今現在の生活での不安を見学時にゆっくりとお話しています。また、ご本人の意向を尊重し、何度でもお話できるような努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも気軽に相談して頂けるように電話連絡や来訪、携帯メールで不安・要望を聞くように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時に、御家族及びご本人の意向、要望を把握し、他のサービスの支援や情報等お話しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は家族のような雰囲気の中で共に支え合って生活しています。入居者から手助けして頂くこともあり、その日の体調や雰囲気を大事にして過ごすよう支援に取り組んでいます		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事や緊急時等必要に応じて家族と連絡を取っています。しかし遠方や家族の都合で面会に来られない方もおり、積極的に連絡するよう心掛けています。また入居者個人への宅配やホームへの頂き物に関してはお礼の手紙・電話を差し上げています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他の施設へ入所されているご主人の面会やお見舞いを継続されている入居者もいます。また、馴染みとなった行きつけのお店での買い物や食事をする機会も増えており、大切にしています。	行きつけのお店での食事や買い物、お墓参り、他施設に入所している家族への面会などに加えて、車を利用しての大型ショッピングモールへ行くなど、以前からの馴染みを大切にするとともに、新しい馴染みを作る支援にも取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居年数の経過により、入居者個々の個性が表われ、炊事・洗濯の日常の場面に就いて競争心が芽生え、互いに意識する光景が見られています。そのため職員は、入居者の得意分野を見極め、入居者同士の関係がスムーズに行えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所に至った家族の悩みや相談等その都度こまめに対応し、御家族の不安軽減に努め、その後もボランティアとして御家族に協力を頂いています。また、他施設への入所された方の御家族へその後の状況等連絡させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活でのケアを1対1で行うことで普段の会話や雑談から入居者の意向や要望を収集し、ミーティングにおいても全職員で共有して把握に努めています。	1対1とは、貴方だけしか見ていないという時間を作ってあげること、との認識を基本とし、利用者の訴えを聴いてあげたり、話してあげたりすることで、思いや意向をくみとり、本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談でご本人・御家族の意向や要望を収集し、できる限り入居前の生活を継続できるよう、医療機関の受診等支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々の24時間記録と日々の様子を観察し、心身状態の変化等を把握するよう努めています。状態変化が見られた場合は、別途2号用紙に記録すると共に申し送りを通し、継続的な支援が出来る様に取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人の希望を優先に考え、御家族・訪問看護師・職員の意見交換を行い、前年に引き続き、身体機能の低下を防ぐことを重点に、朝夕の体操や合唱で声を出すことにより、嚥下機能の低下防止を介護計画に反映させています。	利用者や家族の意向を基に、日中・夜間・早朝、それぞれの時間帯における利用者の特徴や様子を職員間で共有し、必要に応じて看護師や医師の意見も求め、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日常生活の気付きを個別の24時間記録と日々の様子を記録し、申し送りを通して情報を共有し、日々の実践に努め、定期的なミーティングの中で見直しを行い介護計画に取り入れています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の会話の中で生まれた外食や買い物への意向や要望も、見逃さず実践につながるよう努めています。また、家族の状況に応じて往診医以外の医療機関へ付き添う場合もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の文化祭や夏祭り・地域行事の参加や自治会を通じての消防訓練を行っています。また、介護支援ボランティアの方が週4回来訪されており、カレンダーや季節に応じた製作物等楽しみながら支援頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科医、週1回の歯科医の往診を行い、年1回は御家族が往診に立会い、身体状況の確認、今後の希望、相談に対応しています。また、入居者の状況によっては入居以前の主治医に継続受診しています。	内科医と歯科医の定期的な往診が行われ、家族にも立ち会っていただく機会が設けられている。また、家族の協力を得て、従来からのかかりつけ医の受診も継続され、適切な医療が受けられる支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来訪し、日常の入居者の状況を職員と共有し、緊急時は24時間対応が可能であり、入居者・職員の安心に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者の状態に合わせ面会を行い、出来る限り看護師や医師と情報交換をし、御家族とも連絡を密に取り合い、安心に繋げるようにしています。更に主治医に連絡・相談を行いながら、早期退院に向け努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化した場合に備え、御家族と密に連絡を取り、更に主治医が御家族と話し合っ、どのような終末期を迎えるのかを確認し、職員を含め全員で方針を共有しています。また、継続的医療行為が必要になった時も主治医・看護師と連携を図りながら終末期ケアに対する体制が整っています。	重篤化や医療処置が必要になった場合に備え、事業所の方針を説明し、本人・家族の意向をアンケートで確認されている。重度化した場合は、家族・職員・医療機関が連携をとり、共有した方針のもとで、終末期の支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルと緊急時連絡網が備えており、訪問看護師は24時間いつでも連絡が取れる体制となっています。入居者の異常を感じた時には血圧測定と共に主治医や看護師に連絡を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと、火災報知機・消火器具の点検を行い、避難誘導について消防署・ホーム・地域の3方向から確認しました。3月の震災以降はテレビや携帯で緊急速報に注意を払い、万が一に備え、職員の連携を強化すると共に家族と連絡が取れる体制を図っています。	消防署立ち会いのもと、定期的な避難訓練が行われており、火災だけでなく、水害や地震への対応も検討されている。また、昨年の震災後、家族との緊急時の連絡体制の見直しや職員の連携強化が行われている。	火災の他、水害、地震への対応も検討されていますが、災害発生時は、職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、近隣への役割分担などを含めた、協力要請の継続を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者本人の意思を否定せず一人ひとりの人格を尊重し、入浴や排泄介助においては、特にプライバシーやプライドを傷つけないように配慮しています。また、職員は相互に日常の言動を振り返り、対策を検討するなど対応しています。	見られたくない事は他人の目にふれないように、知られたくないことは人前で話さない、などの配慮がなされており、一人ひとりの違いを許容し、尊重した支援がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々の主体性・自立性を大切にし、コミュニケーションを図りながら、一人ひとりの意見に耳を傾け、食事や入浴時間等可能な限り希望に添えるよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ボランティア達の来訪が定期的にあります。基本的には自由に過ごして頂けるよう、できる限り個々の意思を尊重し、押し付けることのない対応を心掛けています。読書や就寝時のラジオ等その人らしい生活への支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服はご本人が選んでいます。困難な時は一緒に行きます。メイクやヘアセットを行う入居者もおり、職員が見守っています。今年度は美容ボランティアの協力により美容室を半日借りてカラーリング・パーマ・カット等を行い、入居者の改めて女性であることに気付かされた機会となりました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態に合わせて調理・下ごしらえ・配膳・食器洗いなど参加しています。下膳・片付けも入居者の積極的行動が一段と見られるようになりました。また使用する食器や盛り付けによっては、食を楽しむ姿が見受けられます。	利用者と職員と一緒に考え、好みや季節を反映した献立が作られており、買い物や調理、配膳・下膳なども利用者の希望と能力により行ってもらい、作ることも含めて、食事を楽しむことのできる支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量が一日を通して確保できているか個別に記録しており、食事量や水分摂取量が少ない方には、好みのもので摂取して頂けるよう支援しています。必要に応じて、医師の指示の下、栄養補助剤に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりに応じた口腔ケアを支援しています。また週に1回、往診歯科医しか衛生師による口腔ケアを行い、職員は指導を受けながら夕食後には義歯の消毒を実施し、より良いケアを行えるよう継続して支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導を心掛け、間に合った場合はお互いに喜びを共感するなど、プライバシー・主体性に配慮した支援を心掛けています。しかし、身体機能の低下によりリハビリパンツ・オムツの併用を必要とする入居者もいます。	個々の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行うことで、できるだけトイレで排泄できるように支援が行われている。また、失禁時は叱らず、成功時は褒めてあげるなど、自尊心を傷つけない配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者一人ひとりの24時間の排泄パターンを把握し、服薬・適度な運動・繊維質の多い食材や乳製品等を組み合わせたり、往診医や看護師の指導・助言等頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今年度は浴室及び洗面所の改修を行い、浴室のカラーや壁紙等を選ぶ段階から入居者が参加し決定を行うなど、入居者の意向に沿った浴室が完成しました。それにより、一人ひとりが入浴時間を楽しむようになりました。	浴室の改修計画に利用者が参加することで、利用者の希望も取り入れた浴室が完成し、入浴を楽しんでいただいている。利用者の希望に沿い、毎日入浴することもでき、季節湯などにより変化も持たせる工夫もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のその時々状況に応じてゆっくり落ち着くまでお話ししたり、飲み物を勧めたり、就寝前の運動・足浴・マッサージ機の使用等で気持ちよく眠れる支援を行っています。リネン(寝巻きを含む)の洗濯も随時行い保清に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の入替りや状態の変化等みられた事で、服薬の変更もあり、あらためて服薬の目的や副作用・用法・用量等把握することが必要となってきています。与薬に至っては飲み込むまでの確認を行い、誤薬を防ぐと共に、異常時は往診医や訪問看護師に報告を行い指示を受ける等支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、入居者個々の得意分野に応じた家事分担を行い、必要に応じて声かけを行っています。また、動物との触れ合いを通して気分転換を図る外出など、入居者の楽しみへの支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気と入居者のその日の体調を考慮して散歩や買い物、外食など外に出る機会を多く持つなど日頃から心掛けています。また、法事・ご主人との面会等、御家族と一緒に外出できるよう協力して頂いています。	日常的な散歩やショッピングモールへの買い物・外食の他、季節に応じて、花見や近隣にある野鳥の森に出かけ、おやつを食べたり、小動物とふれあうなど、気分転換のできる外出支援が、行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族に了解の上、お金は事務所で管理していますが、ご本人が欲しい物や足りない物などは、御家族に事前に連絡し、職員と共に買い物時に購入できるような支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人との関係作りを大切にしています。ご本人が家族に伝えたい状況がみられる場合は、積極的に電話をかけてお話しできるように支援しています。クリスマス会の招待状や年賀状等もご本人から御家族へのハガキを送付できるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年度は浴室の改修及び洗面所の改修を行ったことで使い勝手も良くなり、ご本人が大きな鏡で身だしなみを確認する様子も頻繁に見られるようになりました。また、介護ボランティアの協力によって製作物も一段と増え、ホームの壁面を飾ることで居心地の良い空間となっています。	利用者の好きなものを決めつけずに、利用者の好みの音楽やテレビ番組等を流して、職員と感想を言い合えるなど、会話により、楽しく過ごせる共用空間が作られている。また、利用者の創作品の掲示により、季節感を感じられる工夫もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は介護ボランティアの方と過ごす時間が増えました。一方でソファで居眠りする方やマイペースで過ごす方等、おもしろいおもしろい過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人の使い慣れた家具・寝具・御家族の写真、仏壇等馴染みの物を持ってきて頂き、入居前の生活の延長としての環境作りで、できるだけ自分の部屋である意識を持って頂けるよう配慮しています。	愛着のある家具や寝具、写真、仏壇などを持ってきていただき、家具の配置も以前住んでいた家と同じ配置を心掛けるなど、利用者にとって居心地のよい居室作りに工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	以前に入居者と職員が洗面所に閉じ込められる事があり、今年度浴室・洗面所の改修の際、開き戸を引き戸にし、入居者の使い勝手も良くなり、加えて閉じ込められる危険の回避もできるようになりました。トイレ・洗面所・各居室には手作りの表札を設置し間違いない方には、さりげなく手引きや声かけ誘導を行っています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム オ・ハナ

作成日: 平成 24年 5月 17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	近隣の方たちを含めた災害対策等の協力関係を引き続きお願いし、働きかけを行っていく	近隣の方たちと共に一緒に訓練等を行う	消火器の使用方法や避難訓練等参加して頂けるようお声掛けしていく	12ヶ月
2	4	運営推進会の定期的な実施	御家族や自治会、包括支援センター、介護支援ボランティアの方との交流を通じ定期的な開催を行えるよう取り組む。	オ・ハナ主催の行事参加を通じて定期的な運営推進会議を行えるよう取り組む。	12ヶ月
3	14	他GHとの職員同士の交流	部会を通じての研修参加や他のGHの施設訪問等スタッフ間の交流機会を設ける	外部の研修や部会を通じての研修、また他のGHに相互訪問する機会を設けることによって、スタッフの活動意欲を活かせる機会としていきたい。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。